

重点検討項目 3 回答：環境課（一部 クリーンセンター）

5-1-2 地域と学校が連携した環境学習を推進します。

- ①広域ごみ焼却施設における環境学習拠点の設置の可能性や構想について教えていただきたい。

施設を建設する知多南部広域環境組合に確認したところ、環境学習拠点は設置する予定であり、構想については、現在、協議中とのことです。

また、現在、クリーンセンターで行っている見学受入等は、引き続き行う予定です。

- ②小中学校におけるEMSの導入について、導入できない問題点は？課題が多そうに思う。学校現場の負担増とならないよう考えて行きたい。

環境課、教育委員会が学校側に負担を強いることになるということで、導入を見送ってきた経緯がありますが、今後は、はんだエコアクション2019における導入を検討するとともに、次回改定の際には、学校の負担にならない「学校版はんだエコアクション」の策定等を検討し、EMSの導入を図っていきたいと考えています。

- ③次世代を担う子供たちにキチンとした環境学習をすることは大変有意義であると考えます。

- 1) 現在、どの学校でどのような環境学習が取り組まれているのか。地球温暖化についての取組は？
- 2) 今後、どのように推進するのか
- 3) 学校の余裕の時間が年々減少しており、今後の見通しについて

- 1) 各小学校の環境学習の状況については、別紙アンケート（平成29年度実施）のとおりです。また、その他として、環境課事業の「学校・地域連携環境学習推進事業」（年度3校ずつ）とアイシン精機株式会社の「アイシン環境学習プログラム事業」（年度2校ずつ）があります。

地球温暖化についての取組みが行われているのは、亀崎小学校1校のみです。

- 2) 学校へは、出前講座をより多くの学校で開催してもらえよう、積極的にPRして行きます。また、これに併せ、県等の環境学習講座も学校に紹介して行きます。
- 3) 学校とより一層の連携を図り、学校のニーズに合った魅力ある環境学習を提供できるよう努めることで各学校における環境学習の時間を確保して行きたい。

重点検討項目 3

 回答：環境課（一部 クリーンセンター）

④長期的に見たら環境学習は不可欠である。

- 1) 小中学校のプログラム、支援策をどのように考えているか？
- 2) 今後の支援策は？

- 1) 環境課の環境学習プログラム、支援策は、⑤でもご質問を頂いていますが、子どもの頃からの意識付けが重要であり、環境学習については、今後、環境に配慮した行動がとれる人になれるきっかけ作りの場にしていきたいと考えています。
- 2) ③－2) と同じです。

⑤環境については、子どもの頃からの意識付けが重要と考えるため、小学生向けの環境学習（特に分別について）の内容を精査し充実させることが必要と考える。そのため、現在実施している子どもへの環境学習について、学習内容の見直しを行う機会はあるのか確認したい。

クリーンセンターでは、半田市内の全小学4年生を対象とする施設見学を毎年行っており、ごみ減量や分別、リサイクルの必要性について学んでいただいています。また、学習内容については、毎年、学校と打合せを行い、見直し等を行っています。
(回答：クリーンセンター)

環境課の出前講座等については、適宜見直し、改善を図っています。

 ⑥学校は各課からの出前講座や地域の人を講師とした学習が組まれている。例年行われているものは精選され継続されていると思うが、終了後、学校と見直しなど話し合っているのか。
また、さらに、学校は出前を増やすことはできるのか、どんな出前を必要としているのか、学校からの意見も集約したい。

⑤でもお答えしましたが、環境課の出前講座等については、適宜、見直しと改善を行っています。現在、学校との意見交換は行っていないが、今後は、改善点や学校のニーズなどを把握する時間を作っていきます。
また、出前講座を増やすことについては、学校との意見交換の中で可能性を確認していきたいと考えます。各学校からの意見については、別紙アンケート（平成 29 年度実施）のとおりです。

重点検討項目 3

 回答：環境課（一部 クリーンセンター）

⑦民間の出前講座とも連携して、環境学習の出前講座の仲介を進めて欲しい。

民間の出前講座としては、生涯学習課の「ゲストティーチャー制度」によるものと環境課にご登録いただいている「環境保全団体」が主催するものの2つがあり、学校等から要望等があれば、この「ゲストティーチャー」や環境課に登録いただいている「環境保全団体」を紹介・仲介しています。

なお、「ゲストティーチャー制度」は、事前に登録された市民や企業・団体が、特技等を活かして小中学校、公民館、一般のグループや団体などからの依頼に対し、ボランティア講師（ゲストティーチャー）として活躍する制度であり、環境に関連した内容では、2名の方、2つの企業が登録しています。

また、環境保全団体等主催の講座、イベントについては「環境講座・イベント情報誌」に掲載しており、今後、民間の出前講座の掲載も検討していきます。